

第7次火山噴火予知計画の推進について(中間報告)

科学技術・学術審議会(測地学分科会)

火山噴火予知計画のこれまでの成果と課題

経緯

- 昭和49年～火山噴火予知計画(第1～6次)
- 現計画(第6次,平成11～15年度)が本年度終了。
- 平成14年にレビュー及び外部評価を実施。

現計画中の主な成果

- 有珠山(2000年)では噴火前兆現象の推移を着実にとらえ、さらに、適切な情報発信が行われた結果、噴火前に住民避難。
- また、三宅島(2000年)でも、噴火前兆をとらえるとともに、当初のマグマの移動については確実に把握。

課題

- いずれの場合でも、噴火開始後の火山活動の推移予測については、依然として解決すべき問題が残されており、基礎研究の推進が不可欠。

第7次火山噴火予知計画策定の方針

基本的方針

1. 監視観測や常時観測体制を、火山の活動度や防災の観点から順次強化整備
2. 噴火機構の理解や噴火ポテンシャル評価の定量化を図るために、基礎研究を幅広く推進
3. 関係機関の連携強化・関連観測データの一層の有効活用

第7次火山噴火予知計画の実施内容(平成16～20年度)

1. 火山観測研究の強化

- (1)火山活動を把握するための観測の強化
- (2)実験観測の推進
 - ・集中総合観測
 - ・火山体構造探査

2. 火山噴火予知高度化のための基礎研究の推進

- (1)噴火の発生機構の解明
- (2)マグマ供給系の構造と時間変化の把握
- (3)火山活動の長期予測と噴火ポテンシャルの評価
- (4)火山観測・解析技術の開発
- (5)国際共同研究・国際協力の推進

3. 火山噴火予知体制の整備

- (1)火山噴火予知体制の機能強化
- (2)火山活動に関する情報の向上と普及
- (3)基礎データの蓄積と活用
- (4)地震予知観測研究等との連携強化